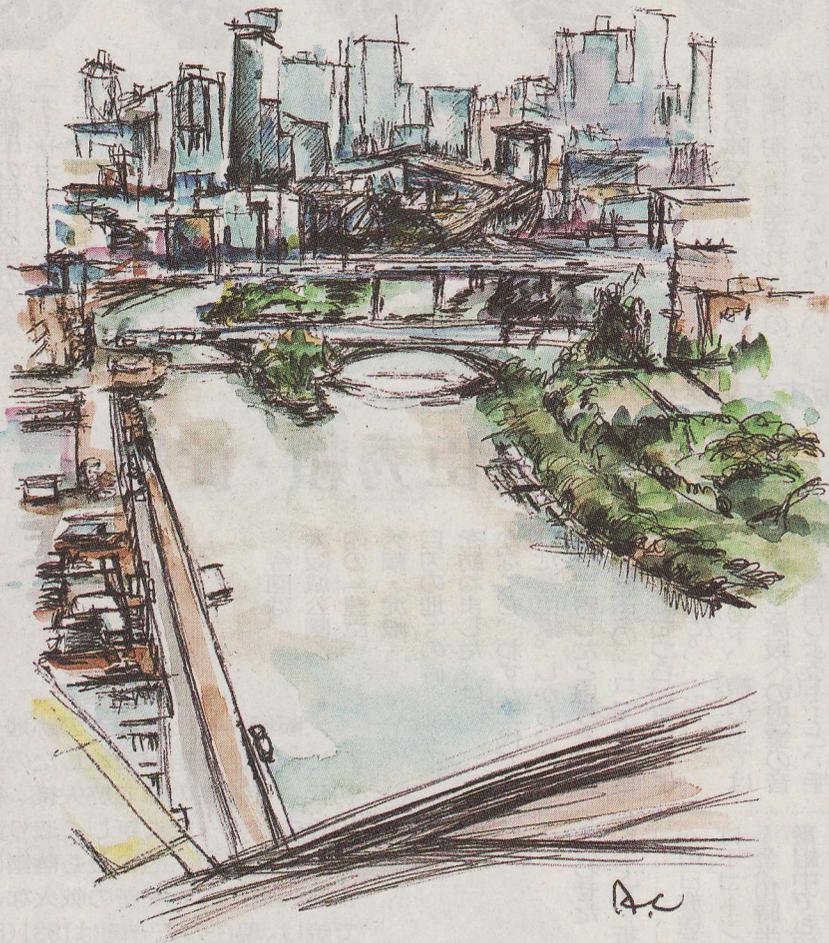


5

OMMビル屋上から

# 御堂筋の 鳥の かたり



## 無機質な都市空間に潤い

時には高い所から、下界分で見ると、人間社会を囲む自然や宇宙の営みの方が見下ろすのも良いものである。日ごろ目の高さで見ている社会を鳥になった気

て見えないものによって導かれているように思えてくる。別に信仰心を持っていないくても、それは神の力とか創造主の意志とかで説明するしか方法がないよ

**メモ**  
大阪マーチャンダイズ・マートビル(OMMビル)は高さ約80m、地上22階、地下4階建ての複合ビルで、69年にオープン。大阪市、京阪電鉄、竹中工務店などが出資する第三セクターが管理する。

うな、何かを感じるのであらう。中之島は商都・大阪の本拠地であり、御堂筋の起点的拠点でもある。御堂筋界隈をどこまでとするかという定義をするつもりはないが、これを鳥瞰図的に見ることができたのが、OMMビルの屋上だった。

眼下に大阪城が、オフィスビルが、マンションが、コンクリートの積み木のよように、ひしめき合っ建てている。緑が少ないので潤いのない無機質な都市空間を感じ、見るからに窒息しそうになる。こんな無機質な空間に、アクセントとわずかな潤いを与えてくれるのが、大川(旧淀川)を二分する中之島と、その二つの支流、堂島川と土佐堀川である。川辺の上空には高速道路がビルの谷間をうねり、見る者に人間の動きを感じさせてくれる。

同じ動きでも、大阪の街中の温泉で、渋谷の女性専用施設の爆発のような事故がなければいいのだが、とつい考えてしまった。人口密集地であれば犠牲者も多くなる。防災都市と言われるて久しいが、果たして大丈夫かなと不安がよぎった。危険という見えないものに投資することに躊躇する日ごろの日本人も、今日の私のように鳥の目で見ると、人間の愚かさが見えてくるのではないだろうか。時には時間を止めて、立つ場所を変えて眺めるのも悪くないと思う。

遠景をみれば、大川が生駒山系に近づくように流れ、大川の水量が一度に大阪湾に流れ込まないように二つに分かれているのも、自然の知恵であり、神の意志と思わざるをえない。足元を見ると、屋上ガーデンが造園されている。屋上緑化もアイデアの時代ではなく、実行・実現の段階に入ってきていると思う。屋上の緑化が進めば、屋上風景というもう一つの潤い空間を創り出し、地球温暖化対策にも貢献しよう。

